

令和7年度第5回富山県総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和8年1月28日(水) 9:00～10:10
- 2 場 所 県庁4階大会議室
- 3 出席者 富山県知事 新田 八朗
富山県教育委員会
教育長 廣島 伸一
委 員 坪池 宏
委 員 大西 ゆかり
委 員 黒田 卓
委 員 牧田 和樹
委 員 松岡 理
- 4 事務局出席者 経営管理部長 田中 雅敏
経営管理部次長 矢野 康彦
理事・教育次長 小杉 健
教育次長・教育みらい室長 中崎 健志
教育次長 板倉 由美子
学術振興課長 水上 優
教育企画課長 森安 祐成
県立高校改革推進課長 丸田 祐一
他関係課職員数名

5 議 事

- (1) 「新時代とやまハイスクール構想」実施方針(案)について
- (2) 次期「富山県教育大綱」(案)について

6 会議の要旨

司会が開会を宣し、新田知事の挨拶後、富山県総合教育会議運営要領第3条並びに知事の指名に基づき、以後の議事については田中経営管理部長が進行した。

(1) 「新時代とやまハイスクール構想」実施方針(案)について

(田中経営管理部長)

事務局から、「新時代とやまハイスクール構想」実施方針(案)について説明する。

丸田県立高校改革推進課長が、資料1「「新時代とやまハイスクール構想」実施方針(案)の主な修正点」、資料2「「新時代とやまハイスクール構想」実施方針(案)」に沿って説明した。

(田中経営管理部長)

委員の皆様からご意見いただきたい。

○委員からの意見

(坪池委員)

大変よくまとまっている。新時代とやまハイスクール構想検討会議において、先進的な学校には先進的な教育課程が不可欠であって、早期に着手すべきという趣旨の発言をしてきた。その前段階として、まずは新時代とやまハイスクールの開校に向けた授業改善をやっていくことがよいのではと考えている。

学校現場から、先進的な取組みに積極的な若手教員がかなり増えてきたと聞いている。こうした先進的な取組みの中には、新時代とやまハイスクールにマッチしたものもあるのではないか。これから新たにそういった取組みをしていくのも大事であり、教育委員会において、学校訪問やあらゆる機会を通して、そうした事例を掘り起こすとともに推進、普及してもらいたい。

これに関連して、ここは大変重要だと思うが、先進的な取組みに対して生徒がどのような反応をしているのか知りたい。生徒の反応を見極めながら進めていくことで、「こどもまんなか」の視点が担保されていくものと考えている。

個人的な教師の取組みは限界がある。こうした取組みをさらに進めていくには、理想論かもしれないが、学校ぐるみでやっていかななくてはならない。

すでに学校ぐるみで取り組んでいるところとしては、氷見高校のHIMI学、富山中部高校のSSHなどもあるが、これらは全国的にトップクラスの取組みであると言われている。こうした取組みの横展開も重要ではないかと思っている。いずれにしても、今学校で起こっていることをベースに考えていくことが大事。

今出された方針は、期待される人材の視点からまとめた、いわば上からの改革、対して学校現場から湧き上がってくるものは下からの改革と言ってもいいのではないかと思う。学校現場からの下からの改革を推進していくことで、再編全体の機運が高まっていけばよいと思っている。

(大西委員)

実施方針案は非常に多くの意見を丁寧を受けとめ、検討を重ねた上でさらに磨き上げ、方針に反映されていると感じている。事務局の方々は本当に大変だったと思っている。

先日の検討会議では、今後はよりスピード感を持って進めていくべきだという意見があった。また、学校での学びにおいては、AIの活用を前提にした内容にシフトしていく必要があるのではないかという意見もあった。

この実施方針を踏まえて、令和8年度には、大規模校の具体化や、実際に第1期に開設される新しい高校を作る準備が本格的に始まっていく。これらの取組みに、私たち教育委員もしっかりと覚悟を持って向き合っていきたい。

(田中経営管理部長)

委員の皆様からのご意見を踏まえ、新時代とやまハイスクール構想の実施方針案に

ついて、知事から発言をいただきたい。

(新田知事)

昨年度末に新時代とやまハイスクール構想の基本方針を策定した。そして、今年度に入ってから5月に、このハイスクール構想検討会議を設置して、教育委員の皆様にも会議のメンバーに入ってもらい、これからの学校づくりの方向性などについて、集中的かつ熱心にご議論をいただいた。そして本日、この構想の実施方針を取りまとめるところまでこぎつけた。この実施方針は、冒頭にも申したが構想の方向性を示す羅針盤のような位置付けである。

一方で国の高校教育改革に関するグランドデザインが出た。それから、社会情勢も刻々と変わっている。今後の中学校卒業予定者数の状況もしっかりと注視しながら、必要な場合は見直しをすることも考えてまいりたい。

着実に構想を推進することが大切。今後、大西委員もおっしゃったように来期以降の具体的な学校づくりについての議論が始まる。先週の構想検討会議でも多くの委員の皆様からご意見があったとおり、これからも引き続き「こどもまんなか」の視点が一番大切だと思っている。

また「こどもまんなか」とは、先生も真ん中ということだと思う。上からの改革、下からの改革、これは両々相まって良い教育環境ができると思う。基本目標である新時代に適応し、未来を切り拓く人材の育成、これを実現するために、生徒への多様な選択肢の提供、3つの期に分けた再編などを基本とする考えをぶれさせることなく、検討を進めていきたい。

(田中経営管理部長)

新時代とやまハイスクール構想実施方針については、今回お示しした案をもって、決定することとする。構想の実現に向けて引き続きよろしくお願ひしたい。

次の協議に移る前に、県立高校改革推進課から、今ほどの知事の発言にもあった、国の高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン（仮称））について説明する。

事務局から、国の高校教育改革に関する基本方針について説明する。
丸田県立高校改革推進課長が、資料3「国の高校教育改革に関するグランドデザイン2040」に沿って説明した。

(2) 次期「富山県教育大綱」(案)について

(田中経営管理部長)

教育企画課から、次期富山県教育大綱(案)について説明する。

事務局から、次期富山県教育大綱(案)について説明する。
森安教育企画課長が、資料4「第3期富山県教育大綱(第4期富山県教育振興基本計画)(案)」ほか資料5～7、参考資料1、2に沿って説明した。

(田中経営管理部長)

委員の皆様からご意見いただきたい。

○委員からの意見

(牧田委員)

前回、前々回でお願いしていたライフステージに合わせた目指す姿の記載はご配慮いただき、大変良くなったと思う。

先ほど、「こどもまんなか」とは教師も真ん中という話があり、「教師が意欲と能力を高め、子どもと向き合える環境づくり」という項目があるが、そのとおりだと思う。

例えば、先生方の仕事は授業、校務、事務をこなす力と細分化されている。そして一番大事なことだが、子どもたちにとって先生は、家族以外で最初に出会う社会人であり、子どもたちにとって社会人のイメージが刷り込まれるとても大きな機会だと思っている。そういう意味では人格形成に影響を与えるだろうし、育てていく先生自身の人間性、そういったものも求められる。

「教師の業務を切り分けて」と書いてあるが、全くそのとおりで、今後おそらく、今言ったようなことを全部1人の先生がやるのは不可能になってくるので、これをどう分担するかということになる。そうすると、教員採用検査において求める基準も必然的に変わってくると思っている。

例えば授業だけうまくやってもらえばいいという職種の人はそのところを教員採用検査で問わなければいけないし、他にも人格を見るということなども、教員採用検査のどこかに入れておいたほうがいいと思う。

今後、業務が細分化され、AIも助けてくれるので、AIができることはAIにさせればよく、AIに代替されない能力を子どもたちに身に付けさせる前に、まずは先生たちに身に付けてもらいたい。そういう人たちを採用するための準備をしておいたほうがよいのではないかと思う。

(黒田委員)

非常によくまとまっていてわかりやすく、イラストも入り見やすくなっているが、気になる点が2点ある。

1点目だが、提示資料35ページに、基本理念から教育方針、色分けされている図があるが、これはどこに入ってくるものか。

(森安教育企画課長)

周知用の概要資料に入れるものとして作成した。もちろん大綱の中に入れることも可能である。

(黒田委員)

せっかく綺麗にまとめているので、どこかに入れられたらいいのではないかと思う。

これも本文のところにも対応するところが出てくるかもしれないが、「未来に向けて子どもたちが自ら考え行動すること」という言葉があり、これはこれで悪くはないが、可能であれば次のことをご検討いただきたい。

AIに代替されないという話も今出ていたが、最近、特に2030年、40年を見据え、「自ら考え責任を持って」という文言がこれまでとの違いとして、文科省の様々な検討などにも入っていることが多い気がする。現状のままでも構わないが、可能であればそういう表現を入れた方がよい。

2点目は、参考資料の28ページだが、これも以前指摘をし、考え方の説明等修正いただいた。文科省の学力調査の調査項目と合わせてだと思うが、「授業でPC・タブレットなどのICT機器の使用」という参考指標、30年の目標値が全国平均と同水準を目指すとなっているが、この全国平均は、2024年の全国平均なので、2030年にはもう少し全国平均が上がっているのではないか。

それから授業だけではなく、家庭での利用を含めると、持ち帰って使っている事例も増えてきている。現状2030年にやっと追いつくように見えてしまうため、大変なのはわかるが、もう少し高めに設定された方がよいのではないか。

(松岡委員)

ICT教育はどうしても必要だし、教員の働き方改革や、新しい時代に即してタブレットやデジタルデバイスを使いこなせる子どもを育成しないといけないし、そういった教育が求められていることについての総論には、特に反対はない。

一方でデジタルデバイスを多く使うことによる、子どもたちの健康被害、精神的な脳機能に働く悪影響ということも指摘されている。タブレット使用が多ければ多いほど良いというわけではないという意見はパブコメにもあった。

それからもう1つ、パブコメでも何回も触れられているが、今県内では多くの外国人の方々活躍しており、親が家庭で母国語を話す一方、子は幼稚園や小学校などで日本語に接しているという家庭が多くある。

そういう親に日本語での読み書きを教え、日本で生活しやすいようにするための様々なことがされている。

先日教育委員会で、三重県の外国人の子への語学教育を熱心に行っているところを視察させていただいたが大変魅力的であった。本当にここは日本なのかというくらい多くの国の子どもたちが元気にやっていた。

やはり東海地方は工業地帯でそういった方が数多くおり、日本での社会生活を支える仕組みを、古くから熱心に作っているということだったので、いよいよ富山県でもそういった取組みが必要になってくると思っていたところ、パブコメにもそのようなご意見があり、なるほどそうなのかと思った。

(大西委員)

指標について意見を申し上げる。この指標については前回の指標と違って、アウトカム的な要素を含み、基本理念にうたうウェルビーイングを測れるものということと説明を受けた。18ページ参考指標の中で、「高校生のインターンシップ等体験率」と、43ページの「1年間に生涯学習を行ったことがある人の割合」と「県民カレッジ受講者数」この2つの分野の指標について特に少し感じたことだが、この施策によって、どのような変化が実際に起きたか、子どもをはじめ県民の生活、意識が変化したかなどといった面も測れる指標があってもよいのではないか。

例えば、「高校生のインターンシップ等体験率」は、それを体験したことによって、この項目の施策で目指す姿を考えたときに、高校生の意識がどう変化したかを測れたらよいのではと思った。同じことだが、生涯学習を行ったり、県民カレッジに参加したりすることによって、施策で目指す姿、これに関して、参加者、受講者の意識の変化を測ることができたらよいのではないか。

今回の教育大綱を改めて読み返して、施策が描く目指す姿を綴っていくと、その中に本当に温かさとか優しさとか、福祉的ともいえるような視点も丁寧に織り込まれており、本当に深く感銘を受けて感動した次第である。この大綱を読むと資料40ページのライフステージにある図でもよくわかるが、幼児期から生涯にわたって教育が私たちの成長とともにあり、主体的に生きる力を支える存在であるということに改めて認識、実感させていただいた。あらゆる世代に寄り添った、非常にすばらしい大綱だと感じた。

(広島教育長)

大綱そのものというよりも、牧田委員から教員採用の話も出たところだが、今文科省で質の高い教員の確保等を目指して中教審の諮問がされている。その中で教員養成課程の取得単位数の見直しのような話が出ている。単位数を少なくするということが、取りやすくするという面と、少なくした分、自分の強みを持つための勉強に向けるというようなイメージになっていると聞いている。

それは外国語、日本語指導であったり、外国人、特別支援教育であったり、色々な個人の強みに、その時間を振り向けるというような流れになっている。そうしたことで、教員採用検査や教員の免許というものも変わってくるし、採用時点で求める能力もそういった流れに応じて、私どもも考えていかなければならないと感じている。

(牧田委員)

今の教育長の話はそのとおりだと思っており、例えば、民間企業と比べてはいけなかもしれないが、民間企業の新卒採用試験は毎年求める基準が変わる。時代の流れに合わせて、その企業が求める人材像が変わっていくからだ。

これがそのまま当てはまるかどうかはわからないが、教師にもそれが当てはまっていくような気がしており、そうした視点を忘れないことが大事だと考える。

文科省の中教審で出てくることは、教育の世界では金科玉条のように、死守されているが、私も臨時委員をやったのでよくわかるが、中教審の動きは遅い。そのためあまりそれに縛られない、富山県独自の教員採用システムというか、検査をぜひ実施してほしいし、それが教育先進県への大きなステップになるのではないかと考えている。

(松岡委員)

不登校についてだが、不登校にならないように学校を魅力的にするのは、もちろん非常にすばらしいことだと思うが、一方で学校に行きたいが行けない状況になってしまう子どももたくさんいる。そのような子どもたちにも、学校に行くようにという圧を強く保ち続けることにどれほど意味があるのかとも同時に思う。行けなくなってしまった子どもたちには行けなくなった上で、豊かに学び、豊かに生きる権利があるし、それを保障

していくことはとても大事で、そこもしっかりと明言してあげると、子どもたちが読むかどうかは別として、親はきっと目を通すだろうから大事なことだと思う。

先ほどの基金の話でも、遠隔での高等教育ということだったが、そういったことが、より様々なことで可能になっていくということであれば、引きこもっても豊かに学ぶ、より高次のことまで学べるということになっていくとよりよいのかなと思った。

(田中経営管理部長)

いただいていたコメントに対して、事務局の方からお話をさせていただく。

(森安教育企画課長)

指標について、ご指摘のとおり、アウトカムになりきれてないところがいくつかある。大綱作成後、よりふさわしい指標が見つければ、プラスしていきたい。

全国平均との比較でも、議論になるところだと思っており、状況は刻々と変わっていくので、その目標値の設定も、計画策定後、状況を見ながら随時見直しをかけていき、設定し直す、あるいは、先ほど申し上げたように、新たに指標を加えるといったことも今後取り組んでいきたい。また指標案等あればお寄せいただければと思う。

(田中経営管理部長)

委員の皆様からご意見を踏まえ、第3期富山県教育大綱案について、知事から発言をいただきたい。

(新田知事)

本総合教育会議において4回にわたって議論を進めていただいた。それと並行して、次期教育大綱策定に向けた意見交換会を開催した。また、子ども県政モニターや高校生富山県議会の委員にアンケートなどをして、幅広い世代、また様々な立場の方々からのご意見も伺うように努め丁寧にやってきた。

そして素案ができ、これまでに委員の皆様からいただいたご意見も踏まえ、例えば今日お示ししたように、県民と教育大綱の関わりとして、ライフステージから見た体系のイメージを加えるなど、よりわかりやすく、また、実効性のある内容となるように追加修正を行った。

今日はさらに、教員の採用については、第5章のタイトル「自ら考え行動する」には「責任を持って」というような文言が必要ではないかということ、また、デジタル端末の適切な使用に関しての記述や、外国人の子どもたちの教育についてなど色々なご提案をいただいた。

指標については、先ほどコメントがあったが、単に定量的なデータを追うだけではなく、その結果、どう行動が変容したのか、あるいは意識が変わったのかといったことについても、KPI とするのは難しい分野かもしれないが、意識してほしいというご意見もいただいた。

これらを、事務局で最終確認し、3月中に公表できるように進めてほしい。文科省の改革の案もあるが、教育を取り巻く環境が大きく変わっている中、子どもたちが未来に希望を持ち、基本理念に挙げた生涯にわたる学びを通して、県民一人一人のウエ

ルビーイングを高める。これを実現するために、教育で何ができるのか何をすべきなのか、この大綱で示しそれを着実に進めていきたいと考えている。

引き続き、委員の皆様には、本県教育の発展に向けてお知恵をお借りしたい、またお力添えをお願いしたい。

(田中経営管理部長)

ただいま知事の発言にもあったが、第3期富山県教育大綱については、本日のご意見を踏まえ、事務局において必要な修正を行ったうえで決定することとしたい。また、3月中に公表予定と聞いているのでよろしくをお願いしたい。

以上で本日の議事を終了する。

この後、事務局より閉会の挨拶を行った。

以上